

日米医学医療交流財団 研修助成

研修報告書 (2014年度 助成者)

作成日 2014年10月24日

氏名 (フリガナ)	山口 孝子 (ヤマグチ タカコ)
研修名・研修地	アメリカ短期看護研修 (アメリカ・オレゴン州ポートランド市)
研修期間	2014年10月12日 (日) ~ 10月18日 (土)
所属機関名	関西医科大学香里病院
身分	看護師

I 研修内容

- 10/12 ・現地受入機関 Portland State University (PSU) にてオリエンテーション
・現地日本人看護師との交流 (自己紹介、体験談)
- 10/13 ・医療機関 Providence St Vincent Medical Center 訪問
レクチャー「マグネットホスピタルについて」
・レクチャー「アメリカのヘルスケアシステムと看護の展望」
- 10/14 ・医療施設 OHSU Doernbecher Children's Hospital 訪問
院内ツアー、ディスカッション
レクチャー「チャイルドライフプログラムについて」
・医療施設 Providence Portland Medical Center 訪問
神経科、ICU 見学
・レクチャー「オレゴン州尊厳死」「リーダーシップ」について
- 10/15 ・医療施設 Calaroga Terrace- Retirement Community 訪問
居住者の体操クラスに参加、施設見学、居住者と交流 (折り紙、習字)
・医療施設 Simulation Learning Resource Center at University of Portland School of Nursing 訪問 患者ロボットシミュレーションセンター見学
・医療施設 AMR Ambulance Company (救急指令センター) 訪問
- 10/16 ・レクチャー「看護教育コーディネーターの役割」
・修了証授与

II 研修を終えて

今回、アメリカの短期看護研修に応募した理由の一つに、研修内容の充実度があった。急性期医療から学校施設まで、またアメリカの医療制度とその現状など、幅広く学べる内容となっており、また実際に訪れる施設はオレゴン州でも有数の医療施設に当たり、現場で得られるものも大変多かった。また、協力して頂いた施設スタッフの方々は皆とてもオープンで明るく、常に笑顔で挨拶して頂いた姿が印象的であり、また熱心に情報提供して頂けるため、私たちが学ぶ環境としてとても恵まれていると感じた。

研修内容で特に印象的だったものは、オレゴン州で唯一認められているという「尊厳死」についてのレクチャーであった。アメリカという多種多様な文化や価値観の中で、倫理的な解釈も人それぞれであり、その中で死を援助するという方法が認められたということがとても興味深かった。同行した仲間の中でも様々なディスカッションの場となり、「人の死」に立ち会う立場として、考えさせられる貴重な経験となった。今後も看護師を続けていくにあたり、とても有意義な時間となったこと、それをサポートして頂いた現地施設スタッフの方々、協力頂いた通訳の方々、同行案内頂いたスタッフの方々すべてにこの場を借りて感謝を申し上げます。